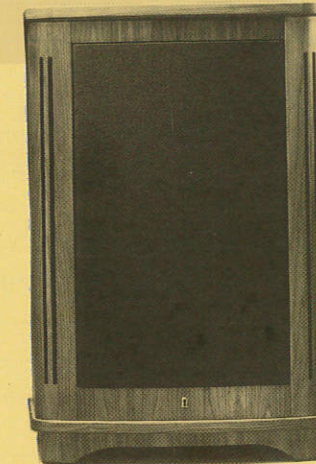


TANNOY

PRINTED IN JAPAN · 0294K1 · M-0151F



取扱説明書

CANTERBURY

TANNOY

CANTERBURY

このたびはTANNOYスピーカー・システムをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱方法をご理解いただいた上で十分に機能を発揮させ、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

もくじ

主な特長	3
スピーカー・システムの設置	4
接 続	5 ~ 7
高音域レベル調整	8 ~ 9
VDPS(低域調整装置)について	10 ~ 11
ALCOMAXⅢについて、バイ・ワイアリングについて	12
仕 様	13
アフター・サービスについて	14
エンクロージャーの保守	14

主な特長

●高磁気エネルギー“ALCOMAXⅢ”
従来のマグネットの3倍の磁気エネルギーを持ったアルニコ“ALCOMAXⅢ”を磁気回路に採用しています。

●高・低域独立型位相補償回路
タイムコンペセイティブ・ネットワークの採用により、より豊かで奥行のある音場感を再現します。

●バイ・ワイアリング・システム
アンプとの接続に高域と低域でそれぞれ別々のスピーカーケーブルを使用することで、音像のディテールをクリアーに再現しています。

●17層のバーチ(樺材)で構成されたエンクロージャー

●ウォールナット無垢材で仕上げられたエンクロージャー

●VDPS(バリアブル・ディストリビューテッド・ポート・システム)
エンクロージャーの左右に装備された“スライド・ピース”を開／閉することによって、低域特性の調節が可能です。

●ロックアップ式レベルコントロール〔TREBLE ENERGY〕と〔TREBLE ROLL OFF〕は耐久性に優れたハイカレントスイッチ(ロックアップ式レベル

コントロール)により、信号の伝送ロスを抑え、低域特性の調節が可能です。

●内部配線は全て最高級バン・デン・ハル社シルバーコーティングケーブル採用

●受注生産方式
受注されましたお客様の名前が、TANNOY社にてネットワークパネルにエッチングで刻印されます。

スピーカー・システムの設置

スピーカー・システムの設置方法は、リスニング・ルームの大きさや音響特性などの諸条件によって異なりますので、ここでは一般的な目安を述べます。

●ステレオ再生を行なう場合、2台のスピーカー・システムは条件のそろった壁面を背にして壁面から20～30cm離し、スピーカー・システム同士を2～4m程度離して、聴取位置を頂点として、ほぼ二等辺三角形を形成するように向けて設置します。

●スピーカー・システムの前面方向には反射や共振を起こすものがないこと

が理想です。ガラス戸などがある場合、壁面との間で定在波が立ちやすいため、特定の周波数のデッド・ポイントにならないように厚手のカーテンなどをひいて吸音させるとよいでしょう。一般にスピーカー・システム側の音響特性がライブ、聴取位置側がデッドのほうが良い結果が得られるようです。

●スピーカー・システムを設置する床や棚は、できるだけ頑丈で共振を起こさないことが条件です。床や棚の板が薄くて弱いと低音域で共振を起こし、低音がブーミーになります。このよう

な場合はVDPS(10ページ参照)で調整したり、総合的な調整をしてください。

●スピーカー・システムの床からの高さは、高音用スピーカーの音軸が聴取者の耳の高さと同じか、少し下になるぐらいが良いでしょう。

●スピーカー・システムのスピーカー・ユニットと聴取位置との間には、視界を妨げるものがないようにしてください。ユニットからの直接音がさえぎられると音質が変わってしまいます。

接 続

接続を行なう前に

接続を行なう前には必ずパワー・アンプの電源を切り、正しく接続されていることを確認の後に電源を入れてください。

スピーカー・ケーブルと入力ターミナルの接続方法は次のページの2通りあります。

スピーカー・ケーブルについて

パワー・アンプのスピーカー出力端子と本機のターミナルを結ぶスピーカー・ケーブルは、できるだけ短くしてご使用ください。スピーカー・ケーブルは長くなればなるほど抵抗が増えてパワーをロスさせ、ダンピング特性を劣化させてしまい、インダクタンスやキャパシタンスも増加して高域の音質を劣化させます。抵抗値の増加やダンピング特性の劣化を最小限に抑えるには、ケーブルの導体切断面が2.5mm²以上の

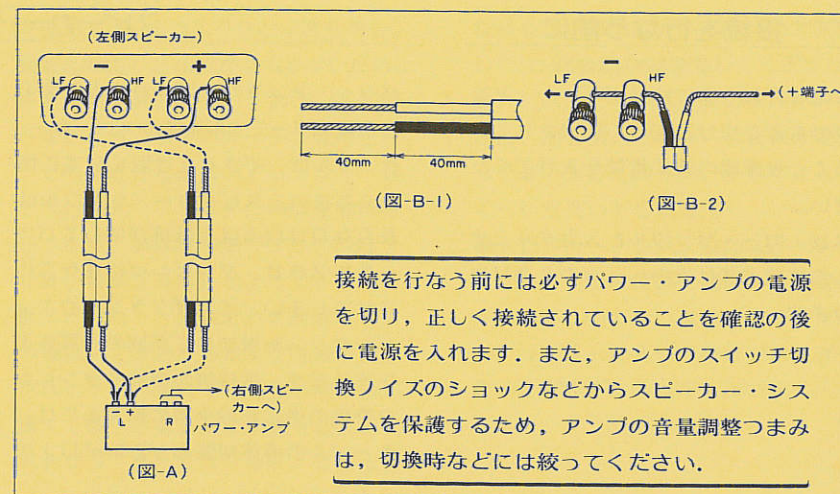
より線をご使用ください。

タンノイ・スピーカー持前の同軸型ユニットの音質をありのまま引出すためには、無酸素銅リッツ線使用のタンノイ・スーパー・レッド・ケーブルSC-T1(5m×2本)／T2(10m×1本)、またはオランダvan den hul社最高級シルバーコーティング、マッチドクリスタル無酸銅スピーカーケーブルVDH-T4、T5(メーカー売り)のご使用をおすすめいたします。

スピーカー・ケーブルとの接続

●バイ・ワイアリング方式

- ①入力端子に付いている“ショートピン”を抜き取ります。
- ②スピーカー・ケーブルを図-Aのように本機の端子に接続します。
- ③スピーカー・ケーブルのもう一方をパワー・アンプに接続します。



●通常の方式

- ①入力端子に付いている“ショートピン”を抜き取ります。
- ②スピーカー・ケーブルの一方(スピーカー側)を加工します。(図-B-1)
- ③②で加工したスピーカー・ケーブルを入力端子の「HF」と「LF」に通してビスを締めます。(図-B-2)
- ④スピーカー・ケーブルの「+」側をパワー・アンプの「+」端子へ、「-」側は「-」端子へそれぞれ接続します。

位相合わせについて

ステレオ再生を行なう場合、左右チャンネルに各1台、計2台のスピーカー・システムが必要です。この場合、両チャンネルの極性を一致させないと、位相が合わなくなって正しいステレオ再生音を得ることができなくなります。位相が正しいか否かは、2台のスピーカー・システムを並べ、低音の良く入っているモノのプログラム・ソースを左右のスピーカーから出して聴くことでチェックすることができます。通常、モノのソースは、アンプのモー

ド切替を“MONO”にすれば簡単に出すことができます。位相が正しく合っている場合には、低音が豊かに良く出て、音像が左右スピーカー・システムの中央に定位しますが、位相が合っていない場合には低音が出ず、定位もぼやけて定まりません。位相が合っていない場合には、スピーカー・システムの入力ターミナル、またはアンプのスピーカー出力端子の左右チャンネルの一方だけ⊕と⊖を逆に接続しなおすと正しい位相になります。

高音域レベル調整

高音域のレベル調整は、リスニング・ルームの音響特性の補正、または個人の好みの音質を得ることを目的として行ないます。

〔TREBLE ENERGY〕は25kHz～22kHzのレベルを5段階に±3dB変化させ、〔TREBLE ROLL OFF〕は+2dB/oct～-6dB/octのスロープで5kHz～20kHzのレベルを5段階に変化させることができます。

それぞれ〔LEVEL〕の位置で周波数特性がフラットになるように設定されていますので、高音域レベル調整を行なう際は、まず最初に〔LEVEL〕にセッ

トし、アンプの音質調整もフラットな状態にして適当なプログラム・ソースを試聴して行なってください。アンプのバランス調整つまみを利用して各スピーカー・システムごとに独立して調整を行なった後、最後に両方のスピーカー・システムで総合的な調整を行なってください。

高音が不足している場合は、その程度によって〔TREBLE ENERGY〕を〔+1.5〕か〔+3.0〕にセットし、高音が出過ぎている場合は〔-1.5〕か〔-3.0〕にセットしてください。

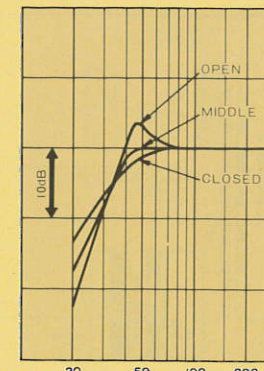
〔TREBLE ROLL OFF〕は、上記の

〔TREBLE ENERGY〕をセットした後に、最終的に低音域とのバランスを考慮して調整してください。この音質調整範囲内で調整しきれない場合は、入力信号またはリスニング・ルームの音響特性を見直す必要があります。

なお、各調整を最大限にセットした場合、相乗作用によって極端な特性になってしまいますので、避けてください。

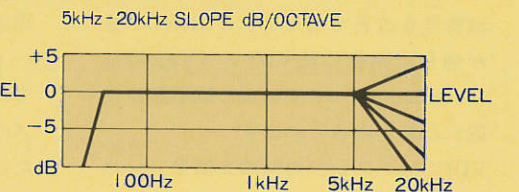
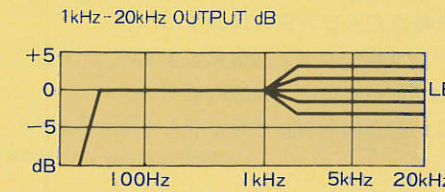
* ロック・アップ・ネジは最後まで確実に締め付けてください。ゆるんでいたりとするとノイズ等の原因になります。

●VDPS特性



OPEN : 両側のバスレフ・ポートを開ける。
MIDDLE : 一方のバスレフ・ポートを閉じ、一方を開ける。
CLOSED : 両側のバスレフ・ポートを閉じる。

●〔TREBLE ENERGY〕, 〔TREBLE ROLL OFF〕コントロール・ネットワーク特性



VDPS(低域調整装置)について

すでに“スピーカー・システムの設置”の項でも述べたように、その設置条件によって音響特性は変化します。

特に低域特性はリスニング・ルーム内の定在波、壁、建具などの共振および床への反射等で大きく変化することがあります。

このように諸条件によって変化する低域特性を改善するため、TANNOY社が独自に開発したVDPS (Variable Distributed Port System: 低域調整装置) が装備されています。

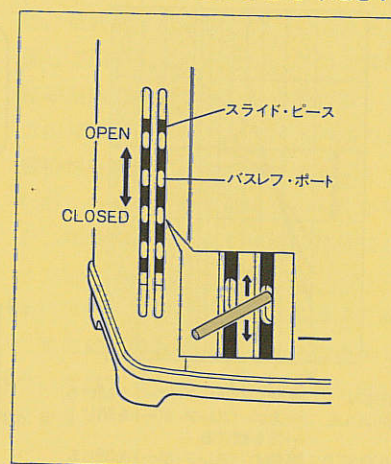
VDPSはバスレフの低域共振量 (Qバリュー) をバスレフ・ポートの開閉に

より変化させるものです。(前ページ特性表参照)

設置したスピーカー・システムのポートを全開 (スライド・ピースを上げた状態) にして、再生して聴感上低域がプーミーになったり増強して聴える場合は、ポートを閉めると低域は減衰して弱められて聴えるようになります。周波数特性および音質は接続するパワー・アンプ等によっても変化しますので、VDPSの調整は、聴感的にバランスの良い総合的な判断でセットしてください。

調整方法は付属の調整棒を使用し、ス

ライド・ピースを上下させてください。



具体的な使用例

(CLOSED)	両側のバスレフ・ポートを閉める。	背面及び側面を壁に付けている場合
(OPEN)	両側のバスレス・ポートを開ける。	背面及び側面が壁から離れている場合
(MIDDLE)	バスレフ・ポートの一方を開け、もう一方は閉める。	背面を壁に付けている場合

ALCOMAXⅢについて

ALCOMAXⅢは従来のアルニコマグネット (TICONAL)の3倍の磁気エネルギー(BH)を持つ大変強力なマグネットです。その結果、ボイス・コイルに流れる電流(音楽信号)が作り出す磁力との間に極めて強い反撥と吸引力を発生し、俗にいう駆動力の強いユニットに仕上がっています。

すなわち信号の変化に対しボイス・コイル(振動板も含め)が時間的にズレることなく、応答速度の速い極めてリニアリティーの良い動きを実現しました。

聴感上の過渡特性が一段と良くなったことにより、各楽器の質感や微妙な表情、自然な音場感の描写が驚く程克明に再現されます。それだけ音楽の表現力が高まったと言えます。

バイ・ワイヤリング(Bi-Wiring)

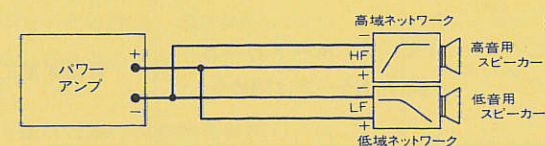
バイ・ワイヤリングとはアンプとスピーカーの接続を片チャンネルに2系統(低音用、高音用)のケーブルを用いるものです。

バイ・ワイヤリングのメリットは高低それぞれの信号がそれぞれのケーブルを通るため、混交調が低減され音質の向上が計られます。

同じアンプからケーブルを2系統使用しただけで高域・低域が別々に信号が流れるという事はなかなかわかりにくいと思いますので以下に簡単に説明します。

高域のネットワークとはハイパスフィルターですから、低域に高い抵抗値をもった回路です。従って低域信号に高い抵抗値がある回路には高域信号のみ(低域を取り去った)の信号が流れることになります。低域のネットワークにも同様の事が言えます。

その結果として2系統のケーブルに高低別々の信号が流れることになります。



※片側のスピーカーに付2系統のケーブルとなるため、両スピーカーでは4系統のケーブルが必要になります。

仕様

	CANTERBURY 12	CANTERBURY 15
エンクロージャータイプ	バスレフ型(可変ポートシステム)	←
使用ユニット (マグネット材質)	12インチ(31cm)同軸2ウェイ*3179 (ALCOMAXⅢ)	15インチ(38cm)同軸2ウェイ*3889 (ALCOMAXⅢ)
許容入力(連続)	120W	150W
能率(dB/w/m)	91dB	93dB
最大音圧レベル(SPL)	114dB	117dB
インピーダンス	8Ω(最小5.5Ω)	←
再生周波数(±3dB)	33Hz~22kHz	28Hz~22kHz
クロスオーバー周波数	1.6kHz	1.1kHz
コントロール・ネットワーク	TREBLE ENERGY/TREBLE ROLL OFF	←
エンクロージャー内容積	140ℓ	235ℓ
外形寸法(H×W×D)	900×580×430mm	1,100×680×480mm
重量	50kg	68kg

付属品 サランネット用ロック・キー、ウッドワックス、VDPSスライドピース調整棒(本製)。

※仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。※この仕様およびデータは英国TANNOY社発表によるものです。

アフター・サービスについて

1. この製品には保証書を別途添付しております。保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認の上で取扱説明書などと一緒に大切に保存してください。
2. 保証期間はご購入日より1年です。保証期間中は、保証書の記載内容により、当社サービス機関が修理いたします。
3. 保証期間経過後または保証書を提示されない場合の修理などについてご

不明の場合は、ご購入の販売店、もよりの当社営業所、サービス・センター、またはサービス1課にご相談ください。保証期間経過後、修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

なお、営業所などの所在地および電話番号は次ページに記載してあります。

4. この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

エンクロージャーの保守

●このスピーカー・システムのエンクロージャーの仕上には、無垢材を含めてウォルナット材が使用されています。この天然の木肌の味わいを深め、美しさを保つために、エンクロージャー表面は付属の特別製ウッド・ワックスを使用して磨くことをおすすめします。

ウッド・ワックスを柔らかい布につけて木の表面に薄くムラなく塗り込んだ後に丁寧に磨き込みます。サランネットにはワックスをつけないでください。

なお、一般の床用ワックスなどを使用すると、仕上にムラを生ずる場合があります。ご注意ください。

ティアック株式会社

営業部 ☎ (0422)52-5076 〒180 東京都武蔵野市中町3-7-3

技術的なお問い合わせ

AV技術相談室 ☎ (0425)60-7761 〒208 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1

サービスに関するお問い合わせは、最寄りの営業所等へご連絡ください。
営業所にはサービス・センターが併設されています。

札幌営業所 ☎ (011)521-4101(代)	〒064 札幌市中央区南7条西2-2 くぼたビル
仙台営業所 ☎ (022)227-1501(代)	〒980 仙台市青葉区1番町2-5-5 中央ビル
新潟サービス ☎ (025)245-0103	〒950 新潟県新潟市本馬越1-4-11 黒井ハイツ
大宮サービス ☎ (048)642-4551(代)	〒330 大宮市三橋2-846
多摩サービス ☎ (0425)60-8918	〒208 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1
東京サービス ☎ (03)3592-1827	〒100 東京都千代田区永田町2-10-7 星が岡会館
千葉サービス ☎ (043)255-1281	〒260 千葉市中央区椿森1-21-13 清水ビル
西関東営業所 ☎ (0427)51-6771	〒229 相模原市千代田1-3-1 M1ビル
静岡サービス ☎ (054)238-2431	〒422 静岡市高松1-12-1 寿道ハイツ105号
名古屋営業所 ☎ (052)702-3100(代)	〒465 名古屋市名東区上社5-406
京都サービス ☎ (075)871-8730(代)	〒616 京都市右京区常盤窪町19
大阪営業所 ☎ (06)384-5201(代)	〒564 吹田市垂水町3-34-10
岡山サービス ☎ (0862)25-8601	〒700 岡山市新保1142-6
広島営業所 ☎ (082)294-4751(代)	〒730 広島市中区西川口町13-19
福岡営業所 ☎ (092)431-5781(代)	〒812 福岡市博多区東光2-2-24
福岡サービス ☎ (092)936-5672	〒811-22 福岡県粕屋郡志免町志免1041
サービス課 ☎ (0425)60-8918	〒208 東京都武蔵村山市伊奈平2-11-1

営業所またはサービス・センターの電話番号や住所などは、予告なく変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。